

株式会社 エーワン精密

平成27年6月期・第2四半期決算説明資料

## 平成27年6月期・第2四半期決算説明資料目次

	ページ
(1) 当社の事業について	
① 当社の事業展開	1
② 事業内容・特色	2
③ コレットチャック部門	3
④ 切削工具部門	4
⑤ 自動旋盤用カム部門	5
(2) 第2四半期決算について	
① 決算の概要	6
② 損益の状況	7
③ 財務の状況	8
④ キャッシュ・フローの状況	9
(3) 今後の事業展開	
① コレットチャック部門	10
② 切削工具部門	11
③ 自動旋盤用カム部門	12
(4) 添付資料	13

# 当社の事業展開

## 経営理念

高品質な製品をより低コスト、短納期で  
顧客のニーズに応え製品を提供する

ものづくりに不可欠な工具を扱う

利益を出せる事業を行う

業界のトップを狙える事業を行う

## 事業内容

コレットチャックの製造・販売（昭和51年～）

切削工具の再研磨及び特殊切削工具の製作（平成11年～）

自動旋盤用カムの製造・販売（昭和45年～）

## 事業領域

旋盤による旋削加工・フライスによる切削加工に使用される消耗工具に特化

機械により素材を削り出し精密な部品加工する根幹となる製造工程に的を絞っている

工具の中でも使用される状況に応じて種類・形状が多岐に亘り製造に手間のかかる工具

## 他社との差別化・当社の特色

多品種で手間のかかる工具に1本から高品質・短納期対応する

直販比率が高く製造・販売両面で利益を享受できる

15,000社以上の顧客からリピートオーダーが入る

## コレットチャック部門

主に小型自動旋盤で使われるコレットチャックの製造・販売

### コレットチャックが主に使われる機械

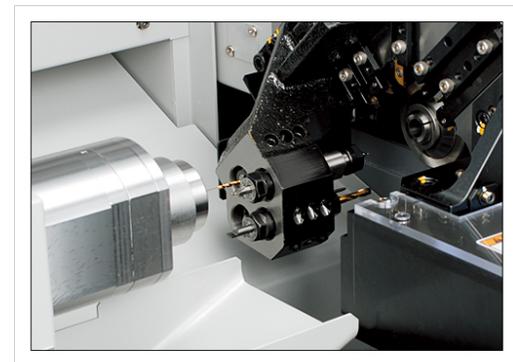
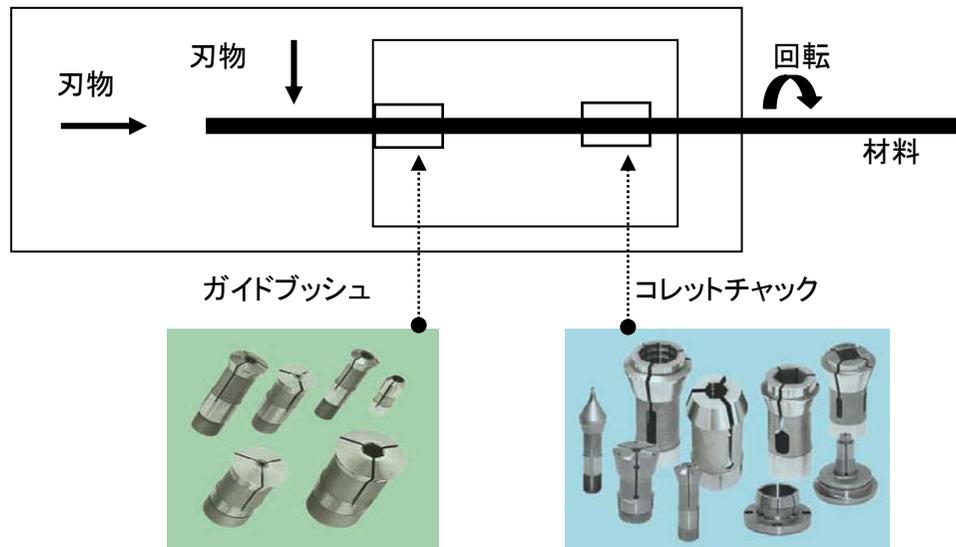
NC旋盤 2,757億円(2014年生産額) 18,864台  
うち CNC自動旋盤約 1,132億円(2014年推定生産額)

主なCNC自動旋盤メーカー

シチズンマシナリーミヤノ、スター精密、ツガミ、高松機械

特殊コレットチャック

専用機 1,028億円(2014年生産額) 4,496台



### 加工部品

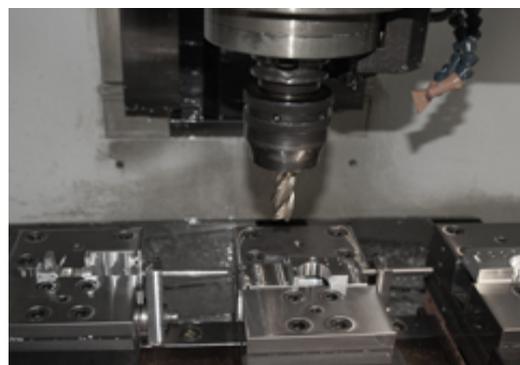
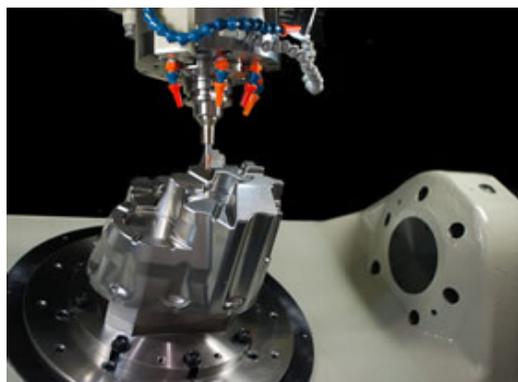
精密機械、産業機械、電子部品、半導体、自動車、航空機、医療機器など



## 切削工具部門

金属等の切削部品加工に使用される工具の製作・再研磨

加工のイメージ



### 主に切削工具を使用する機械

マシニングセンター	4,990億円(2014年生産額)	56,997台
NCフライス、中ぐり盤	179億円(2014年生産額)	769台

### 使用される工具

超硬エンドミル	396億円(2014年生産額)
超硬ドリル	304億円(2014年生産額)
その他超硬工具	431億円(2014年生産額)

### 主なマシニングセンターメーカー

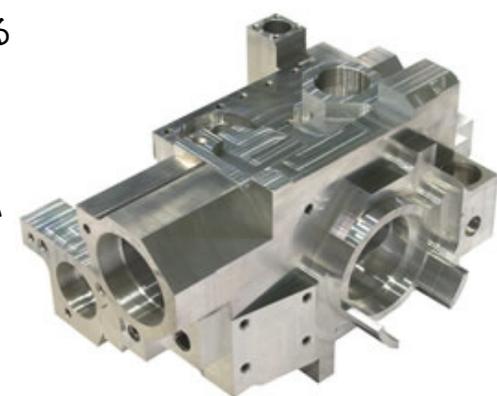
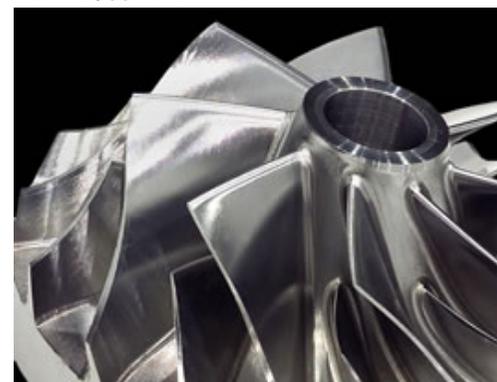
オークマ、ヤマザキマザック、森精機、牧野フライス  
キタムラ機械、安田工業、松浦機械、東芝機械  
三井精機、三菱重工など

- ・材料を固定し、切削工具が回転して材料を切削して部品形状を作る
- ・小物から大物まであらゆる部品加工に使用される
- ・ロットのある部品の場合、特殊切削工具で量産加工することが多い

### 加工部品

一般機械、自動車、精密機器、電子部品、航空機、金型

加工部品のイメージ



## 自動旋盤用カム部門

カム式小型自動旋盤で使用されるカムの設計・製作・販売

- ・同じ部品を大量に効率的に生産できる機械
- ・単品、大量生産部品がアジアなどの海外生産に移行してから機械自体が製造されていない
- ・カム式機械を使用する顧客からの受注に対応

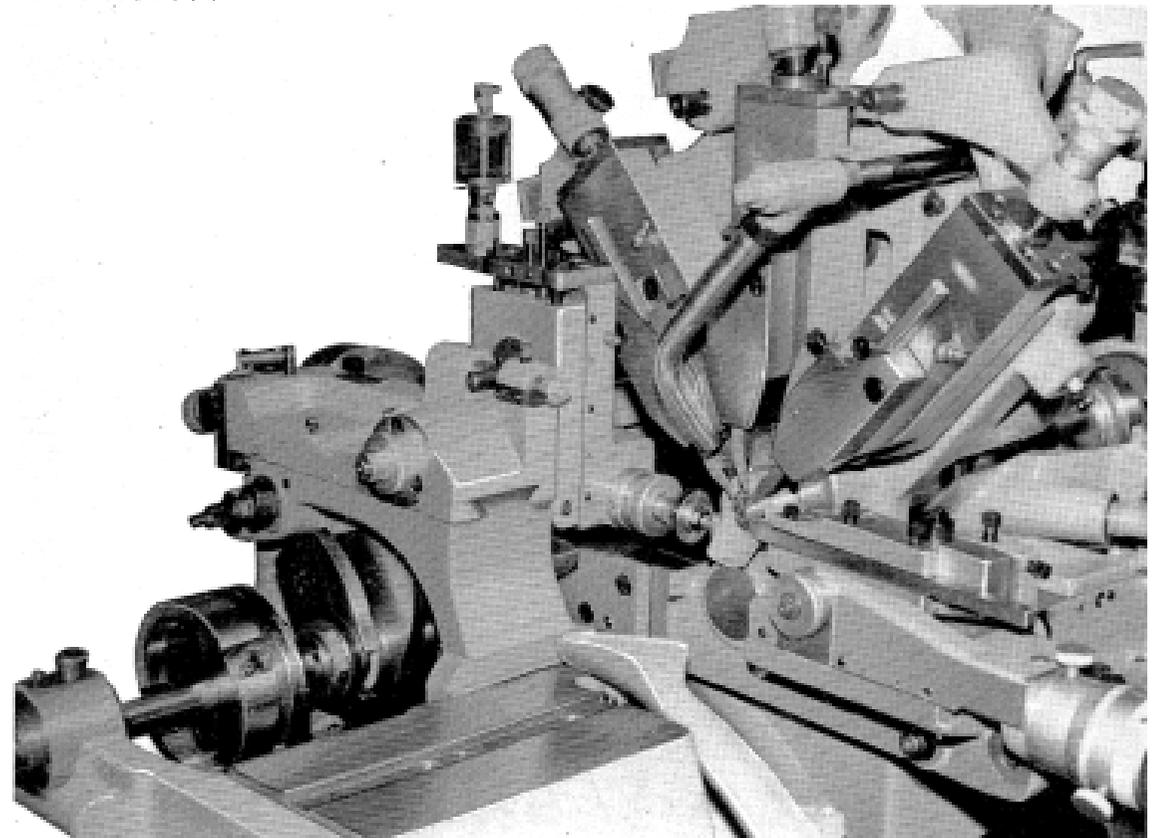
製品写真



カム式自動旋盤(型番: NS-P1053)



カム取付後写真



## 平成27年6月期・第2四半期累計期間 決算概要

**売上** ・国内製造業は大手企業中心に業績回復傾向が継続。高機能材料・部品などの生産は高水準で国内においても設備投資は増加。中小企業でも設備投資補助金を活用した新たな投資が散見され、全体的に動きが出た。新規設備投資や機械稼動の高まりを受けて当社の受注も緩やかながら増加した。

**原価** ・原価償却費の減少で固定費が若干低下。

**利益** ・売上の微増と固定費の微減で利益率は改善。

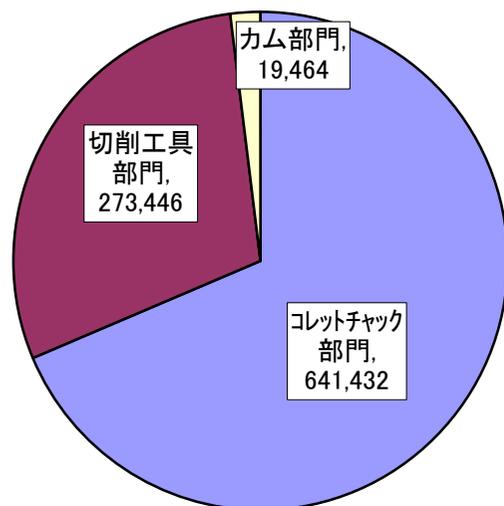
### 人件費

	(千円)	
	前第2四半期(累計)	当第2四半期(累計)
労務費	345,702	359,734
コストに占める比率	50.6%	51.4%

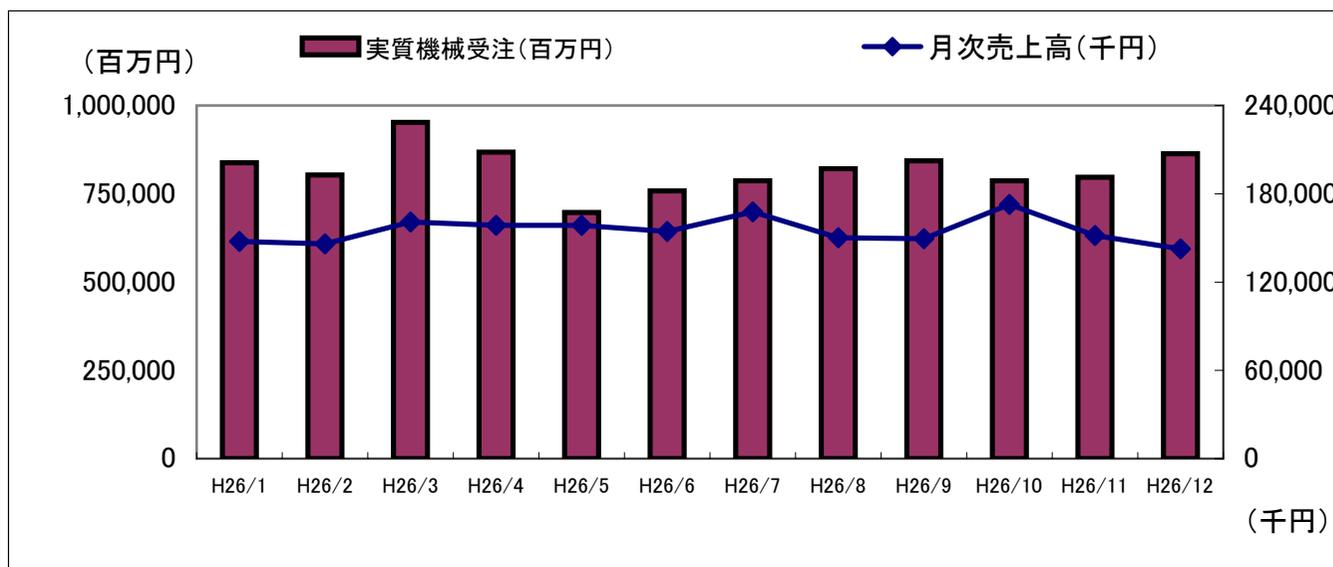
### 設備投資額と減価償却費

	(千円)	
	前第2四半期(累計)	当第2四半期(累計)
設備投資額	98,641	71,547
減価償却費	117,406	104,274

### 部門別売上構成比(千円)



### 実質機械受注と月次売上高



## 平成27年6月期・第2四半期 損益の状況

(単位：千円)

	前第2四半期(累計)			当第2四半期(累計)			増減要因
		売上構成比	前年同期比		売上構成比	前年同期比	
売上高							
コレットチャック	613,410	68.5%	100.1%	641,432	68.6%	104.6%	・既存の機械稼働率の上昇と新規機械設備などで売上は微増。
切削工具	263,534	29.4%	101.2%	273,446	29.3%	103.8%	・設備、金型などの単品加工と自動車等の量産加工も堅調に推移し受注は緩やかに増加。
自動旋盤用カム	19,119	2.1%	96.2%	19,464	2.1%	101.8%	・カム式旋盤で加工する一部量産品に係わる工具で横ばいで推移した。
合計	896,064	100.0%	100.3%	934,344	100.0%	104.3%	
売上原価	543,981	60.7%	97.8%	542,880	58.1%	99.8%	・人員増などで人件費は僅かに増加。減価償却費減少によりトータルコスト減少。
売上総利益	352,083	39.3%	104.5%	391,464	41.9%	111.2%	
販売費及び一般管理費	139,737	15.6%	101.1%	157,042	16.8%	112.4%	・公開買付による自己株式取得費用などでコスト増加。
営業利益	212,345	23.7%	106.8%	234,421	25.1%	110.4%	・売上増加により営業利益率は改善。
経常利益	224,904	25.1%	105.6%	252,033	27.0%	112.1%	
当期純利益	168,111	18.8%	130.0%	208,509	22.3%	124.0%	・投資有価証券売却益計上で当期純利益は増加。

## 平成27年6月期・第2四半期 財務の状況

(単位：千円)

事業年度 資 産	前事業年度末		当第2四半期		主 な 増 減 要 因
	金 額	構成比	金 額	構成比	
現預金	4,376,168	53.4%	4,671,481	55.5%	・利益積み上げと投資有価証券売却により増加。
売上債権	415,574	5.1%	385,510	4.6%	
棚卸資産	203,544	2.5%	198,658	2.3%	
その他流動資産	23,329	0.3%	21,872	0.3%	
固定資産	3,178,048	38.7%	3,137,719	37.3%	・新たな設備投資もあったが減価償却が上回った。
<b>資 産 合 計</b>	<b>8,196,665</b>	<b>100.0%</b>	<b>8,415,241</b>	<b>100.0%</b>	
<b>負 債 ・ 資 本</b>					
買入債務	16,420	0.2%	13,032	0.1%	
その他流動負債	231,322	2.8%	249,168	3.0%	
固定負債	417,419	5.1%	454,130	5.4%	・退職金等の年数による増加と繰延税金負債の増加。
<b>負 債 合 計</b>	<b>665,161</b>	<b>8.1%</b>	<b>716,330</b>	<b>8.5%</b>	
<b>純資産合計</b>	<b>7,531,503</b>	<b>91.9%</b>	<b>7,698,911</b>	<b>91.5%</b>	・利益剰余金と投資有価証券評価差額金の増加。
<b>負債・純資産合計</b>	<b>8,196,665</b>	<b>100.0%</b>	<b>8,415,241</b>	<b>100.0%</b>	

平成27年6月期・第2四半期 キャッシュ・フローの状況

(単位：千円)

	前第2四半期 (累計)	当第2四半期 (累計)	対前年同期比 増減額	主 な 増 減 要 因 ( 対 前 期 比 )
営業活動によるキャッシュ・フロー	212,690	310,906	98,216	主な増加要因：税引前当期純利益 311,620千円 減価償却費 104,274千円 主な減少要因：法人税等の支払額 117,470千円
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 402,496	186,817	589,313	主な増加要因：定期預金の純増減額の減少 101,881千円 ：有形固定資産の売却 160,335千円
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 97,943	▲ 100,531	▲ 2,588	主な減少要因：配当金の支払い額 98,780千円
現金及び現金同等物の増減額	▲ 287,748	397,193	684,941	
現金及び現金同等物の期末残高	282,853	805,620	522,767	

## 今後の事業展開 ～ コレットチャック 部門

### 事業環境

- ◇金属部品加工の微細化・精密化の進展
- ◇大量生産品や高精度を要求されない部品は海外生産へ
- ◇工具の売上は機械稼働率とほぼ連動

### 競合状況

- ◇国内は数社、中国等の工具メーカーの台頭（納期・品質で不安定）

### 当社の事業展開

- ◇専用機・NC旋盤向け特殊コレットチャックの対応力向上
- ◇顧客の要望の充足、納期・品質の徹底

## 今後の事業展開 ～ 切削工具部門

### 事業環境

- ◇加工複雑化に伴い特殊刃物ニーズ拡大
- ◇高価な超硬工具普及により再研磨ニーズ増大
- ◇加工工程短縮・効率化を図るため、高精度の特殊切削工具へのニーズが高まる

### 競合状況

- ◇市場規模推定250億円
- ◇メーカー系、工具商社、各地域ごとに中小規模専門多数

### 当社の事業展開

- ◇営業地域拡張し、知名度・認知度向上を目指す
- ◇特殊ものへ対応範囲を拡大し、新たな顧客層の拡大に努める

## 今後の事業展開 ～ 自動旋盤用カム部門

### 事業展開

- ◇カム式自動旋盤(すでに製造中止)は単品大量生産向きで少量ながらカムの需要は継続
- ◇将来的には減少傾向

### 競合状況

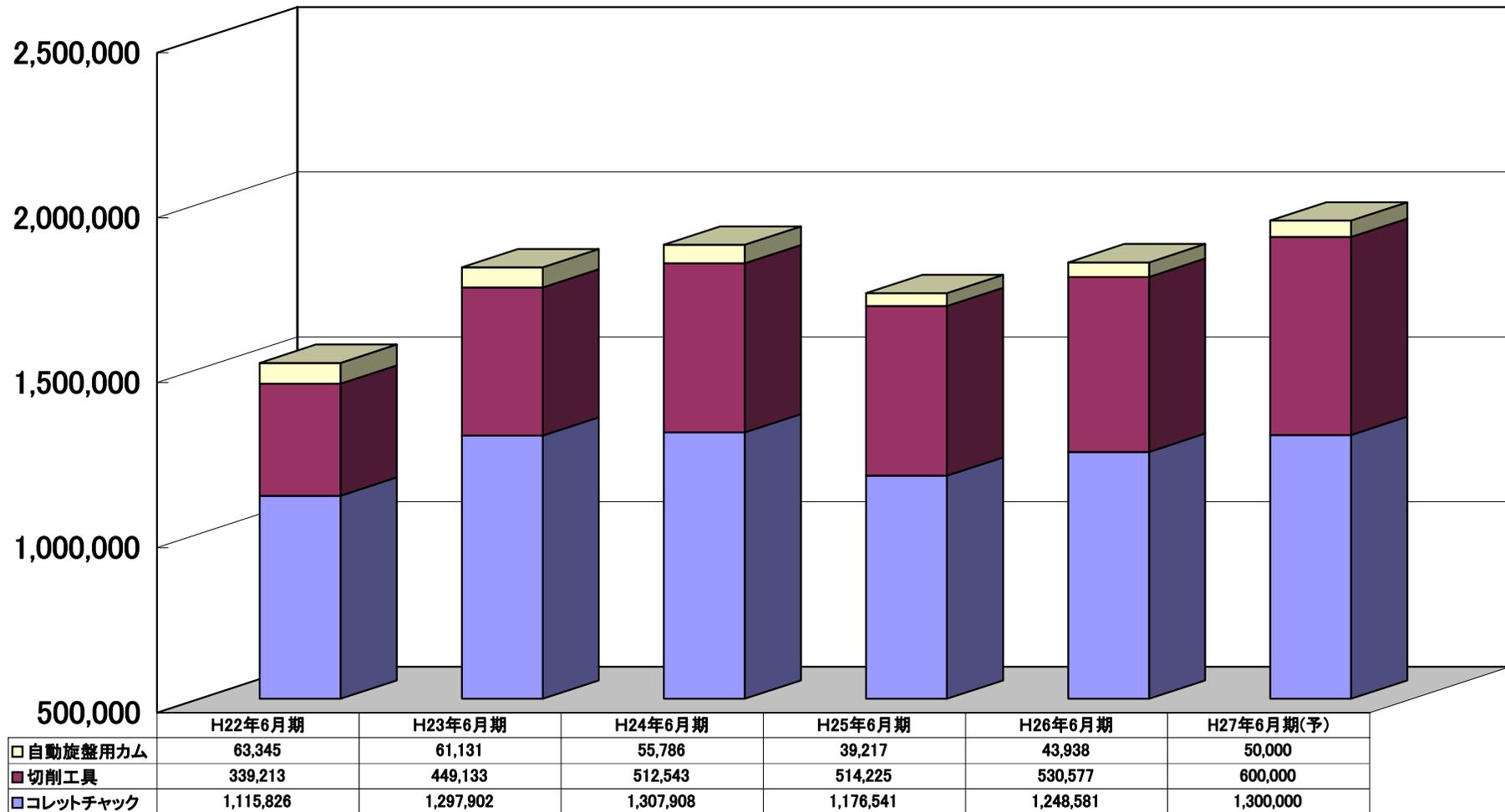
- ◇1億円の市場規模で既存の中小企業が継続している

### 当社の事業展開

- ◇既存の償却済設備と現状の人員で対応
- ◇低コスト製造を徹底

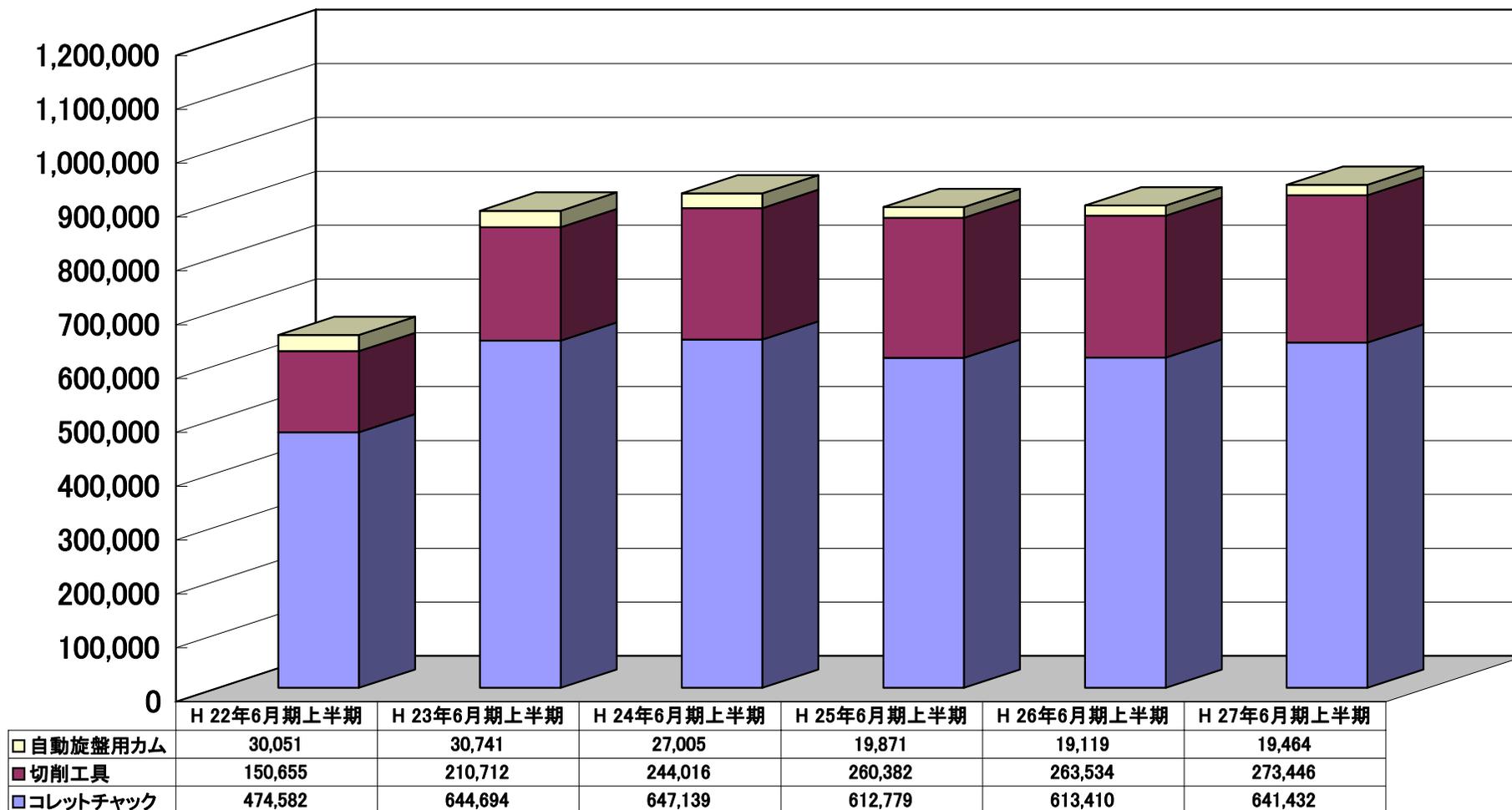
# 部門別売上状況

(単位：千円)



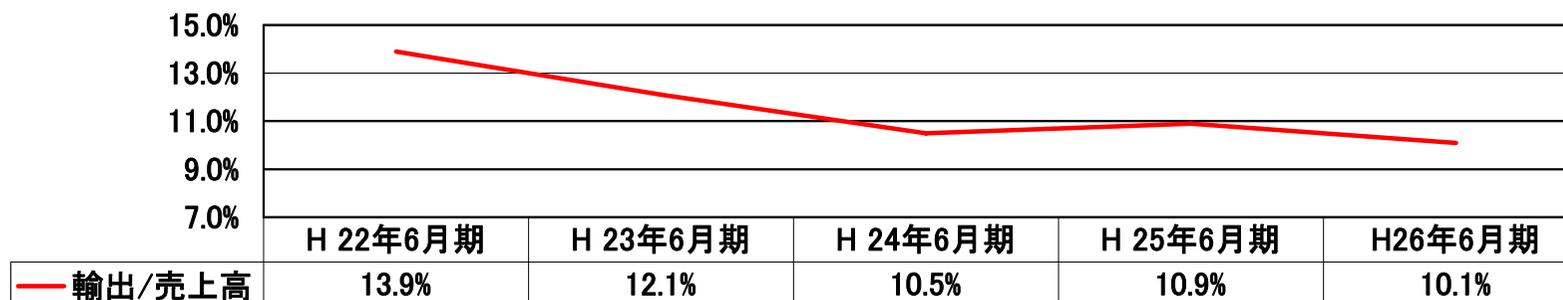
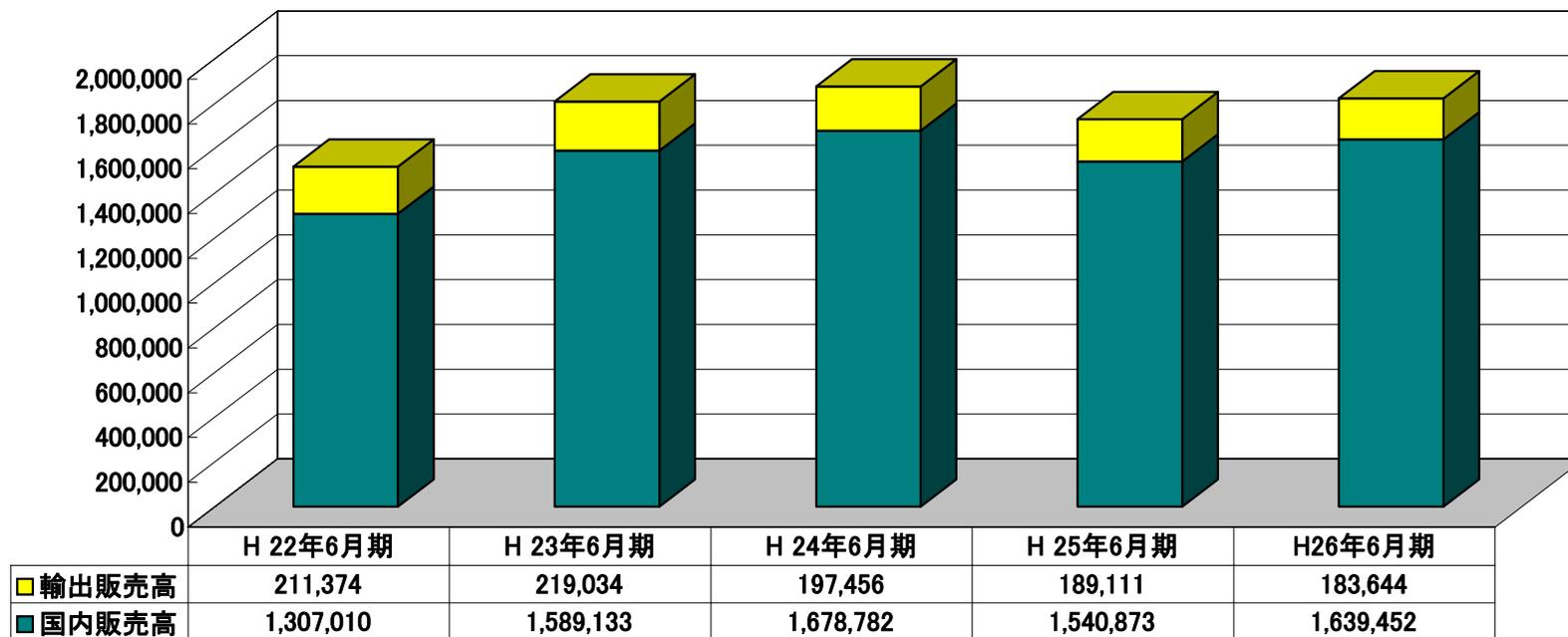
# 上半期部門別売上状況

(単位：千円)



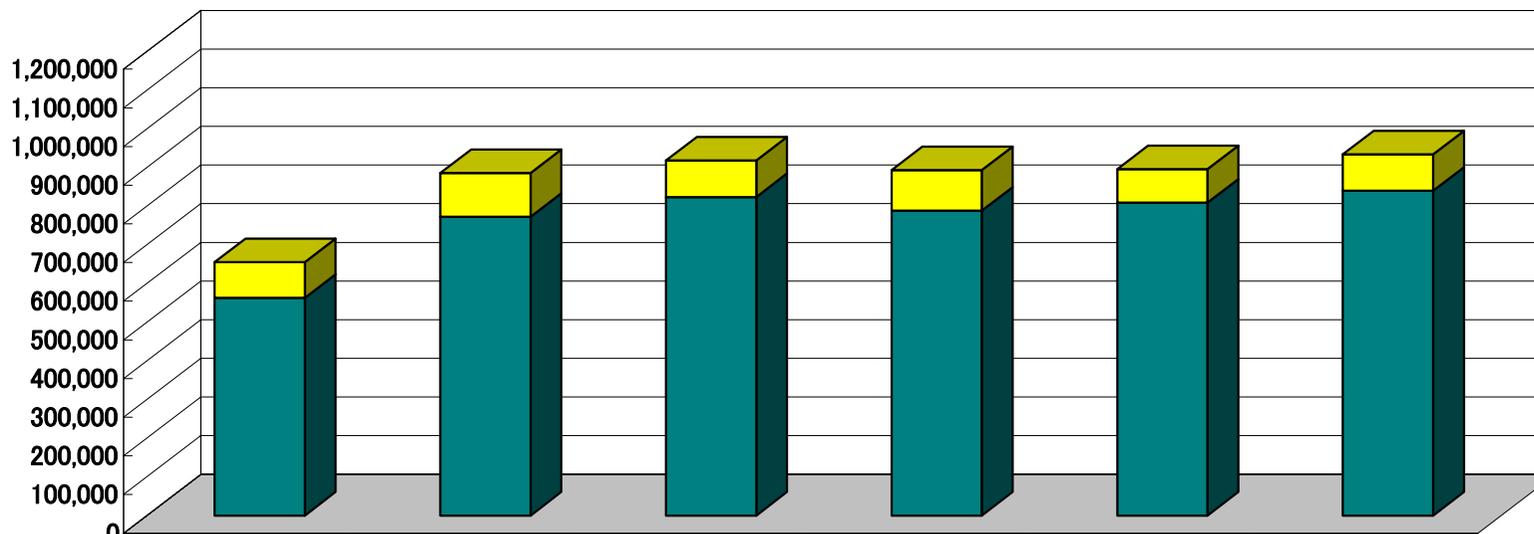
# 輸出売上状況

(単位：千円)

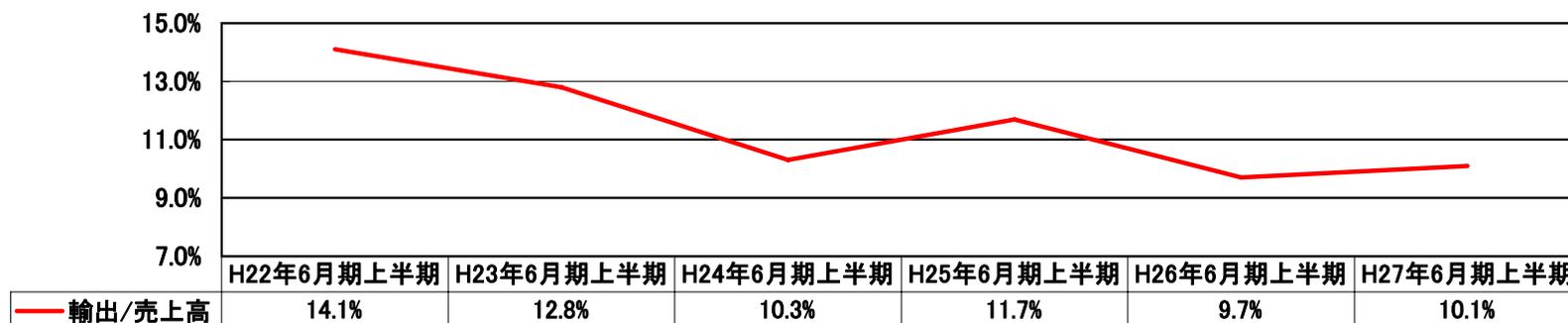


# 上半期輸出売上状況

(単位：千円)

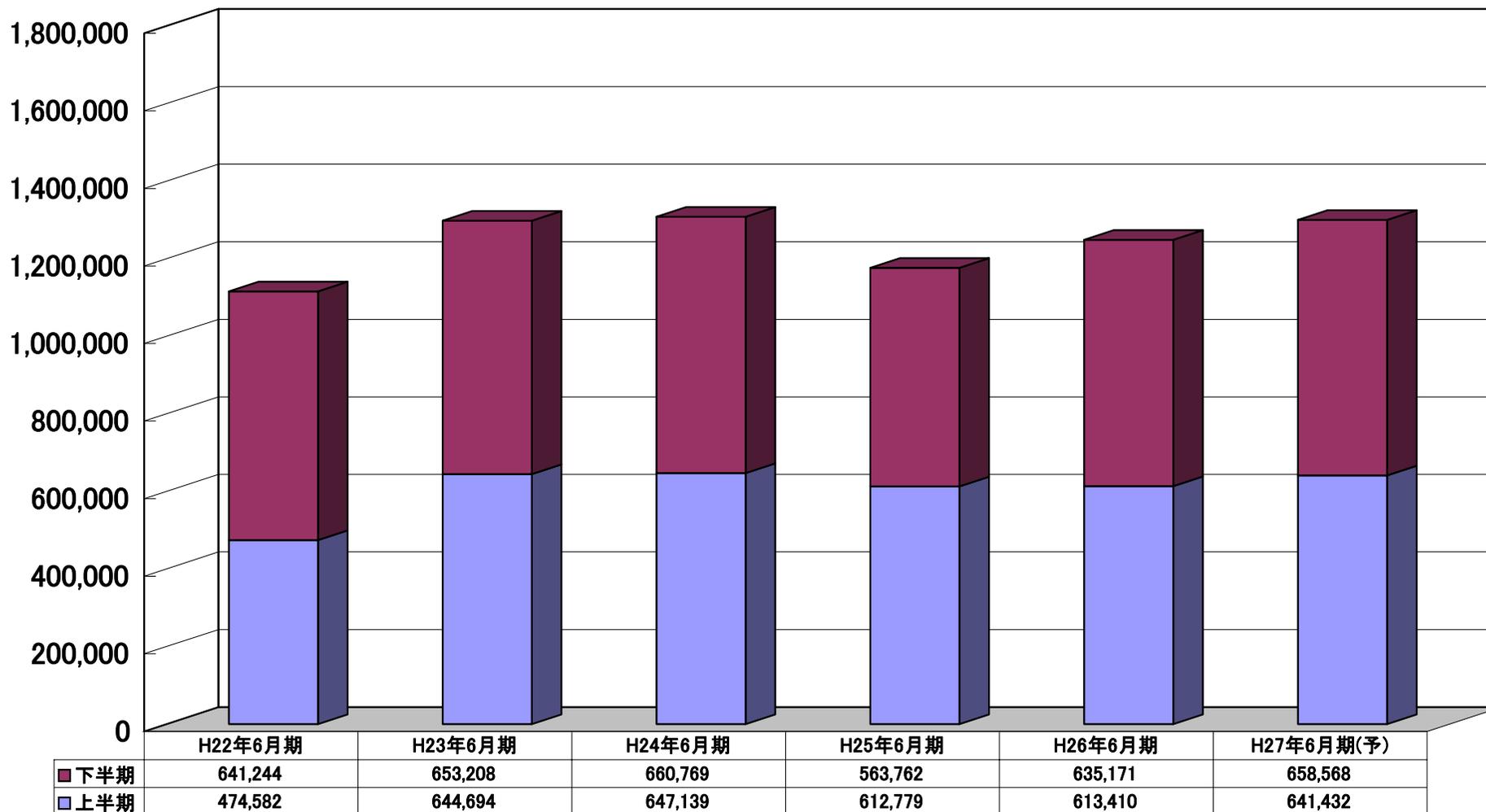


	H22年6月期上半期	H23年6月期上半期	H24年6月期上半期	H25年6月期上半期	H26年6月期上半期	H27年6月期上半期
輸出販売高	92,315	113,657	94,249	104,345	86,914	94,450
国内販売高	562,973	772,490	823,911	788,688	809,149	839,893



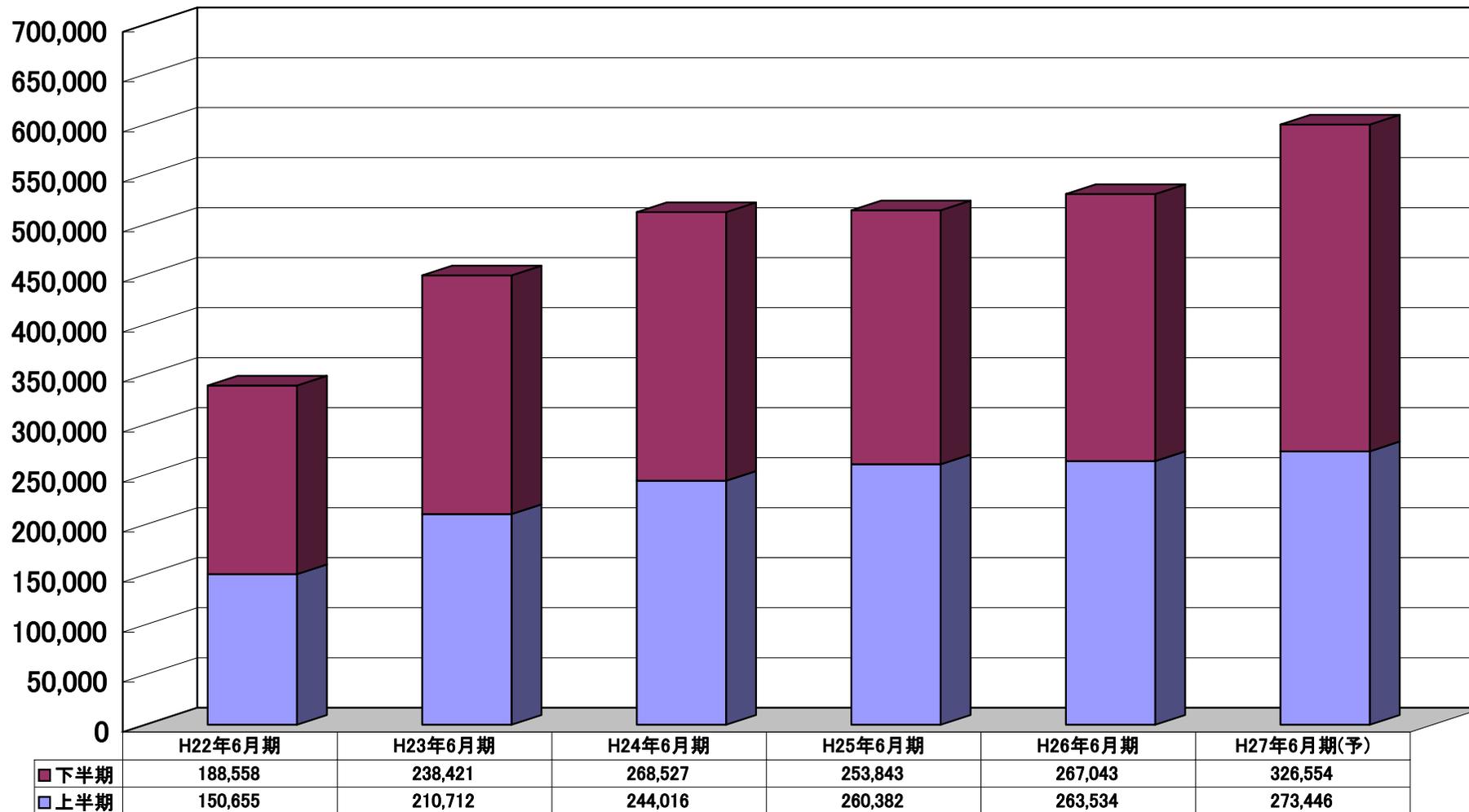
## 部門別状況 ～ コレットチャック部門

コレットチャック部門売上高(単位: 千円)



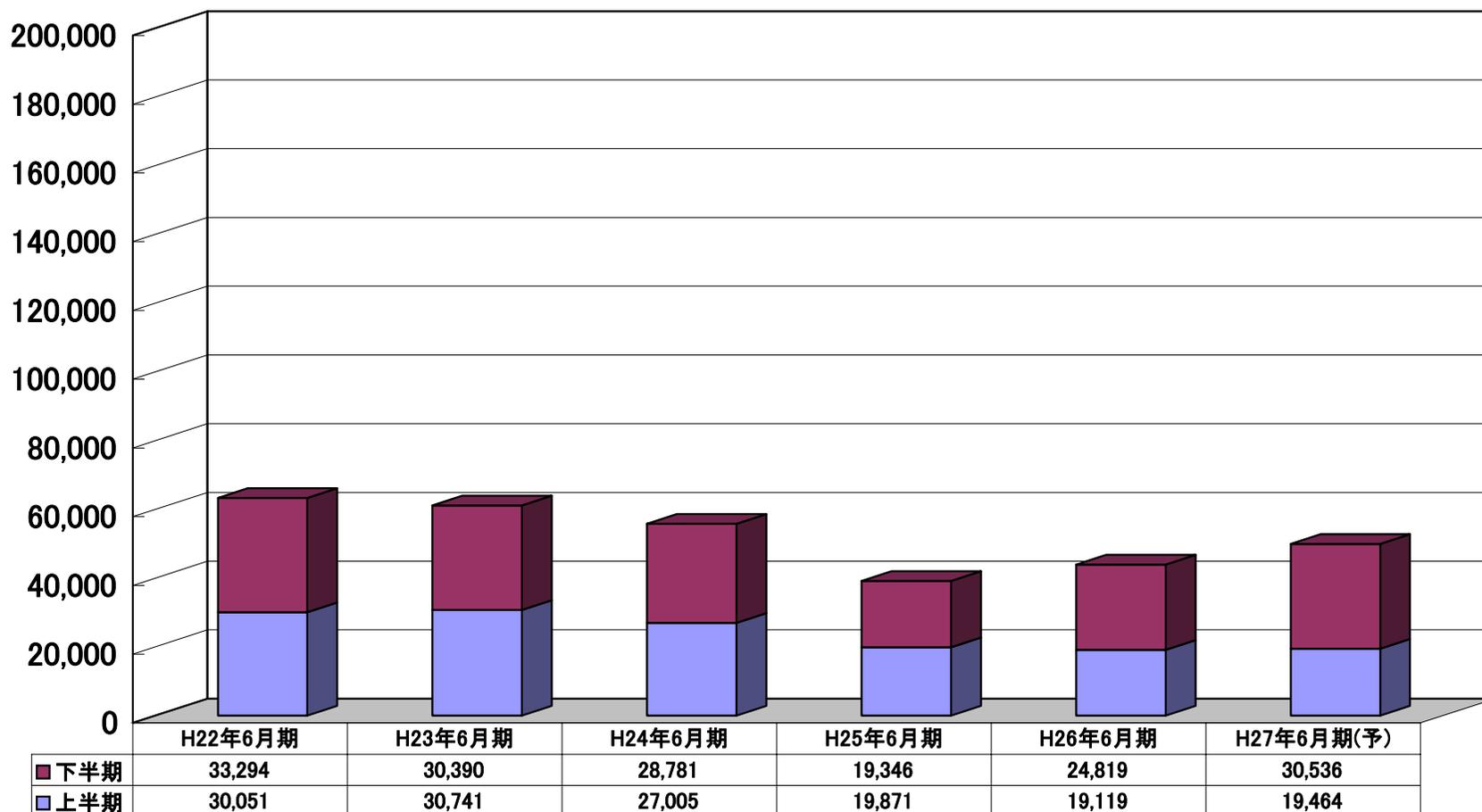
## 部門別状況 ～ 切削工具部門

切削工具売上高(単位:千円)



## 部門別状況 ～ 自動旋盤用カム部門

カム部門売上高(単位:千円)



## 設備投資と減価償却実施額

設備投資額 (単位:千円)	H23年6月期	H24年6月期	H25年6月期	H26年6月期	H27年6月期
上半期	38,580	427,441	63,635	98,641	71,547
通 期	133,667	532,629	77,397	140,894	150,000(予)

減価償却費 (単位:千円)	H23年6月期	H24年6月期	H25年6月期	H26年6月期	H27年6月期
上半期	104,406	132,904	138,261	117,406	104,274
通 期	216,881	291,159	278,748	239,231	219,877(予)

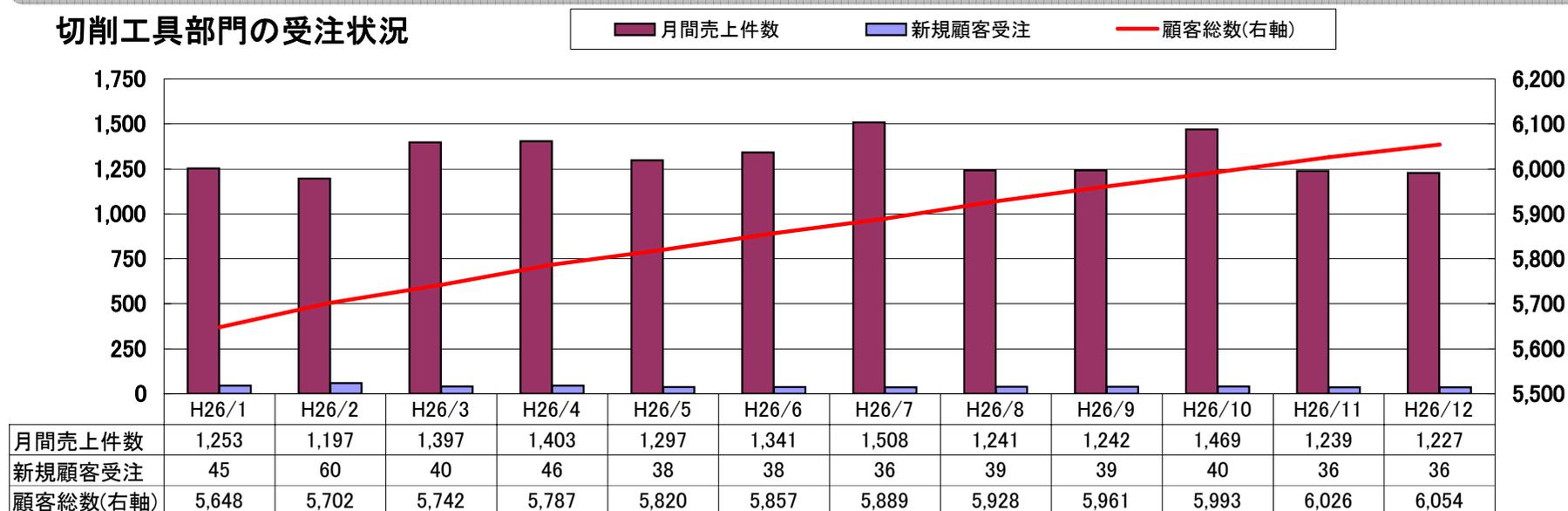
# 切削工具部門の戦略と受注状況

受注体制(人材、設備、社内オペレーション)を万全にする

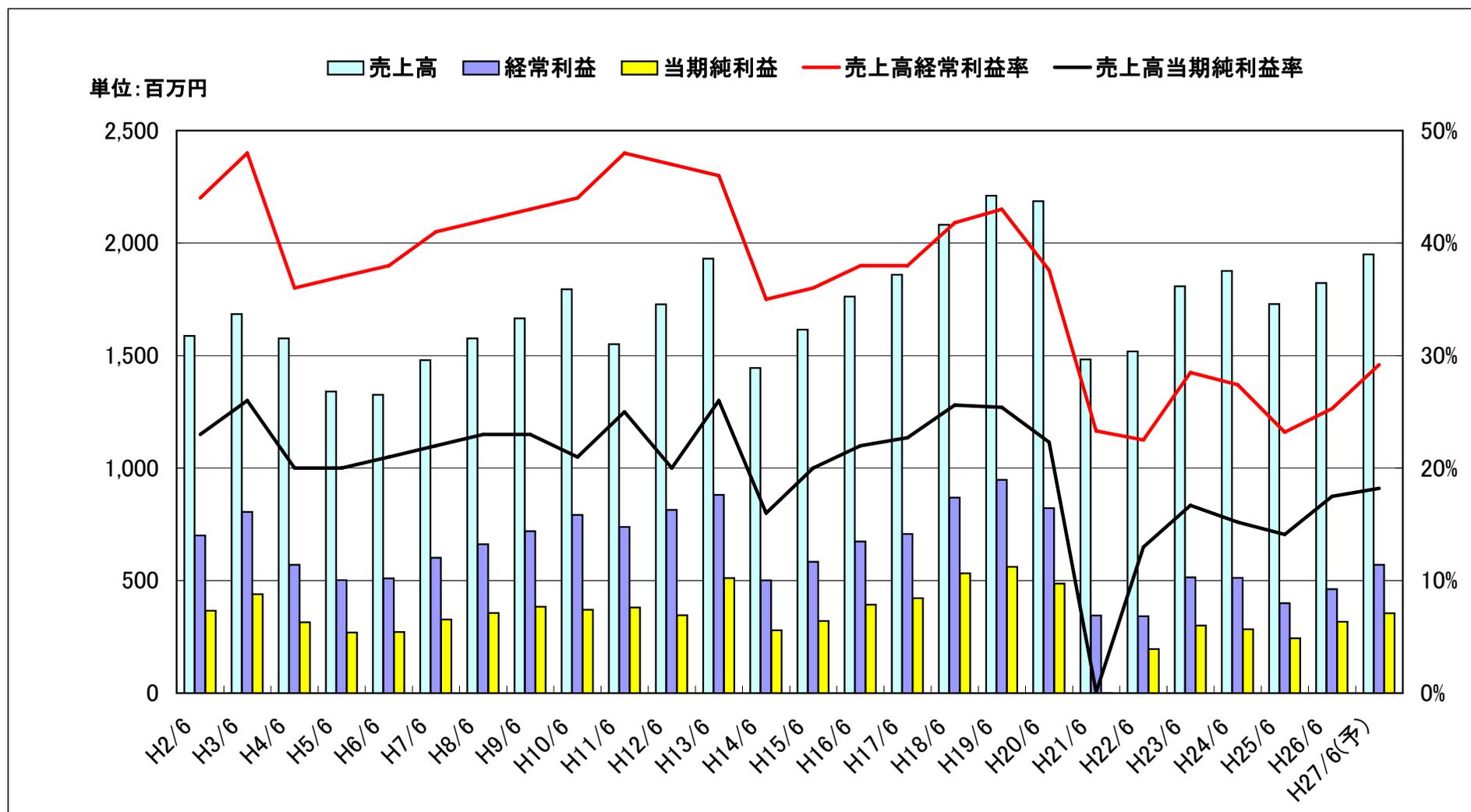
新規設備導入により特殊ものへの対応を強化する

営業地域拡大し認知度向上と地域浸透度を高める

切削工具部門の受注状況



# 業績の推移



# 実質機械受注と月次売上高

